

公共図書館 展示

テーマ展示：図書館で待ってます

今年度の公共図書館部会の展示は、「図書館で待ってます」と題し、「利用者カード」と子ども室にある「ぬいぐるみ」を取り上げることにしました。

企画の意図としては、普段は、あまりにも身近な存在であり、顧みられることの少ないモノにスポットを当てること。そしてどの図書館にもあるモノをとりあげること、より多くの図書館からの参加を促したいと考えました。

◆運営・準備

記念講演講師である柚木麻子氏の著作展示を含めて、実行委員および事務局で準備・運営にあたりました。

テーマ展示については、平成 29 年 10 月から県内の公共図書館に、①利用者カードの貸与または写真の提供、②利用者カードのデザインの由来の情報提供、③子ども室のあるぬいぐるみの貸与または写真の提供、④ぬいぐるみのお泊り会の開催の有無についての情報提供、⑤展示会場での配布物の提供を呼びかけ、イベントへの協力を依頼するなどの準備を行いました。

◆図書館利用カード

県内各地 52 市町の図書館から寄せられた利用カードをそのデザインの由来とともに個別にパネルにして展示を行いました。

カードのデザインは、風景や図書館の建物をとりあげたもの、自治体のキャラクター、それぞれの特産品に由来するものなど、さまざまにバラエティに富んだものでした。

図書館にコンピュータが未導入の自治体からは、ブラウン式のカードなども提供されており、普段目にするものがない他の図書館の利用カードを一堂にみることのできる貴重な機会ともなったのではないかと思います。



◆子ども室のぬいぐるみ

子ども室を彩るぬいぐるみたちを集めて展示しました。各図書館からお借りしたぬいぐるみは、「ふっかちゃん」「きゅぽらん」「こむぎっち」といった自治体のマスコットや、絵本に登場するキャラクターなどなど。

また、事前のアンケートや web の情報から、県内では 20 市町で「ぬいぐるみのお泊り会」が行われていることが分かり、その中から今年度お泊り会を実施した久喜市と入間市の様子をレポートしていただき、パネル展示を行いました。

子ども室の楽しい雰囲気作り一役買っているぬいぐるみたちの様子が伝わったでしょうか。



◆おわりに

コーナーの配置やパネルの並べ方、文字の大きさなど、反省点も多くありましたので、次回はぜひ改善して実施したいと思います。

お忙しい中、御協力いただきました県内公共図書館の皆様、ありがとうございました。

柚木麻子氏著作展示

著作展示は、ギャラリーと、プチホールの2ヶ所で行いました。

ギャラリーでは、柚木麻子氏の小説の特徴である女性主人公のイメージから、青を基調に「少女の面をあわせもつ女性の部屋」をテーマとして装飾しました。また、柚木氏の著作については、同じタイトルの単行本と文庫本を並べて展示し、装丁の違いを楽しめるようにしました。そして中央には、出版されたばかりの最新作『名作なんか、こわくない』（PHP 研究所）を展示しました。著作本に添えた POP は、職員の感想コメントで作成しました。



立ち止まってご覧になる方や、写真を撮っていく方も多く、今回の記念講演の顔として、何とか役割を果たせたのではないかと思います。

しかし、装飾に使った小物等が柚木氏から借りたものかという質問を数人の方からお受けしました。この点については、誤解を生まない表示をすべきだったと反省しています。

プチホールでは、丸机と長机を並べて使用し、丸机は単行本、長机は雑誌と翻訳本のコーナーとしました。どちらのクロスも濃紺で揃えることで、ギャラリーの展示と統一感を持たせました。記念講演後に立ち寄っていかれる方の中には、展示コーナー前で、読んだことのある本の感想や柚木氏自身についてお

話される方も多く、その関心の高さをうかがうことができました。



柚木氏の著作の中で、2017年8月に刊行された『さらさら流る』（双葉社）については、埼玉新聞（2017年10月26日朝刊）の記事に書評が掲載されていたので、本のあらすじとあわせてご紹介しました。また、柚木氏の作品は、女性同士の様々な人間関係を取り上げていることから、色とりどりの花のPOPでタイトルを表示し、その多彩さを表現しました。さらに文庫化や映像化した著作には、わかりやすくPOPを表示しました。また、著作リストの配布もこちらのコーナー内で行いました。



雑誌に関しては、柚木氏のパーソナルな部分に焦点が当たるように、大型の特集記事や、柚木氏が執筆されたコラム記事等を中心に集めました。また、海外資料として中国語（繁体字）や韓国語に翻訳された単行本を4冊ご紹介しました。来場者の方々には、図書館ならではの展示を楽しんでいただけたものと思います。

公共図書館による展示

ブックケア

=未来へつなげる保存の技術=

本の治し方や長く大切するための資料保存の技術を伝える展示も、今年で7年目を迎えました。

保存の技術としては、修理の基本知識や技術、材料・道具について、解説パネルと実物の道具類を展示しました。あわせて様々な破損パターンでの修理の過程を知る「本の修理ビフォー・アフター」や埼玉県立図書館で行っている資料保存の取組をご紹介します。

毎年人気の綴じ体験ワークショップにも、大勢の方が参加してくださいました。



【パネル展示】

＜保存の技術＞（知っておきたい基本）

●修理の基本と材料

①修理の基本

- ・何度でもやり直せること
- ・安全な材料を使う
- ・柔らかく軽く仕上げる

②基本的な材料

和紙（楮）（極薄・薄・中厚・厚4種類）、でんぶん糊、混合糊（でんぶん糊2：白ボンド1）、白ボンド、麻糸

●本の修理の道具

筆（こしのある平筆）、カッターナイフ、定規(金型 30cm)、目打ち、製本針、締め板、重し (5kg、漬物石等)、樫矢 (目打叩き棒)

＜治す技術＞（修理の基本の技術）

- 『本の修理きほんのき』その1～10・プラス1本を長く利用するために気をつけたいこと、

道具や材料、基本的な修理方法を、コツやヒントをまじえてご紹介するチラシを配布しました。



※『きほんのき』ウェブサイトに掲載していますのでぜひご覧ください。

【<https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib/doc/hozon/index.html>】

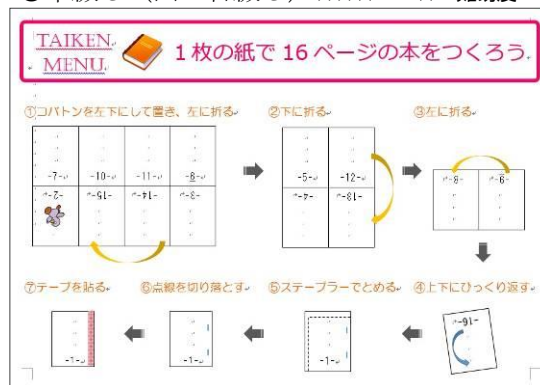
＜本の修理 ビフォー・アフター＞

代表的な壊れの事例4例について、どんな流れで修理するのか過程をパネルで紹介。修理後の現物も並べ、前後で見比べていただくコーナーです。

- 事例1 和紙と糊でやぶれを治す
- 事例2 和紙の足をつけてページをもどす
- 事例3 自立しない本ののどのゆるみを治す
- 事例4 絵本をリンク・ステッチで綴じ治す

【体験コーナー＜カンタン綴じ体験＞】

- 1枚の紙で16ページの本をつくらう★
- 中綴じ本の綴じ直し ★★★
- 平綴じ（四つ目綴じ）★★★ ★：難易度



1枚の紙から一束にまとめる折丁を応用して、一冊の本にする体験は今回が初めてでした。皆様にご好評をいただきました。これを機に、図書館の活動や保存に興味をもってもらえたらと思います。

障害者用資料展示と体験会

◆初参加に向けて

ディスレクシアなどの発達障害により、読むことが困難な子供達にも読書の楽しさを伝えたい、その思いで「図書館と県民のつどい」に初参加させていただきました。

県立図書館では、従来の録音資料や点字資料に加え、マルチメディアデージーなど様々な障害者が利用できる資料があります。

◆マルチメディアデージーについて

障害を持つ子供も、少しの工夫でその子供に合った読書の方法が見つかり、読書や学習に取り組めるようになることもあります。

その一つがマルチメディアデージーです。マルチメディアデージーとは、音声と文字と画像がシンクロ（同期）して再生するデジタル図書です。音声で読まれている部分の文字がハイライトしているので、今どの場所を読んでいるか一目で分かるよう工夫されています。また、文字の大きさを変えたり、背景色などを変えることもできるので、自分が一番読みやすい設定に変更することが可能です。



マルチメディアデージー版「ごんぎつね」を再生している画面（日本障害者リハビリテーション協会製作）

◆教育機関と連携した広報活動

しかし、マルチメディアデージーの認知度が低く、利用につながらないことから、教員に向けて効果的に情報提供するために、教育機関と連携して広報活動を展開することとなりました。

具体的には、埼玉県立総合教育センターな

どで行われる教員を対象とした特別支援関係の研修会等に司書が出向いて、マルチメディアデージー等障害者サービス用資料の資料展示と体験会を行い、広報を行っています。

◆当日の展示

(1) 音声デージー

デージーはデジタル録音図書の国際標準規格です。読みたい見出しやページへのジャンプ、再生スピードの変更等の機能があります。

(2) マルチメディアデージー

体験会では、ノートパソコンで『はらぺこあおむし』の絵本などを再生しました。

(3) マルチメディアデージー教科書

発達障害などの障害により、活字による読書が困難な子供達のために製作された教科書です。体験会ではタブレットを再生しました。

(4) ユニバーサル絵本

点字に加え、絵も凹凸を入れて触って分かるようにした絵本。障害の有無に関わらず、誰もが楽しむことができます。

(5) 布の絵本

フェルト等の布を使って作られた絵本。ボタンやマジックテープなどを使って、絵のパーツを動かしたり取り外したりすることができます。団体貸出のみになります。

◆おわりに

今回の資料展示・体験会において、更なる広報活動の必要性を感じました。今後も「図書館と県民のつどい」等の機会をいただき、読むことが困難な子供達にも読書の楽しさを伝えていきたいと思えます。

